



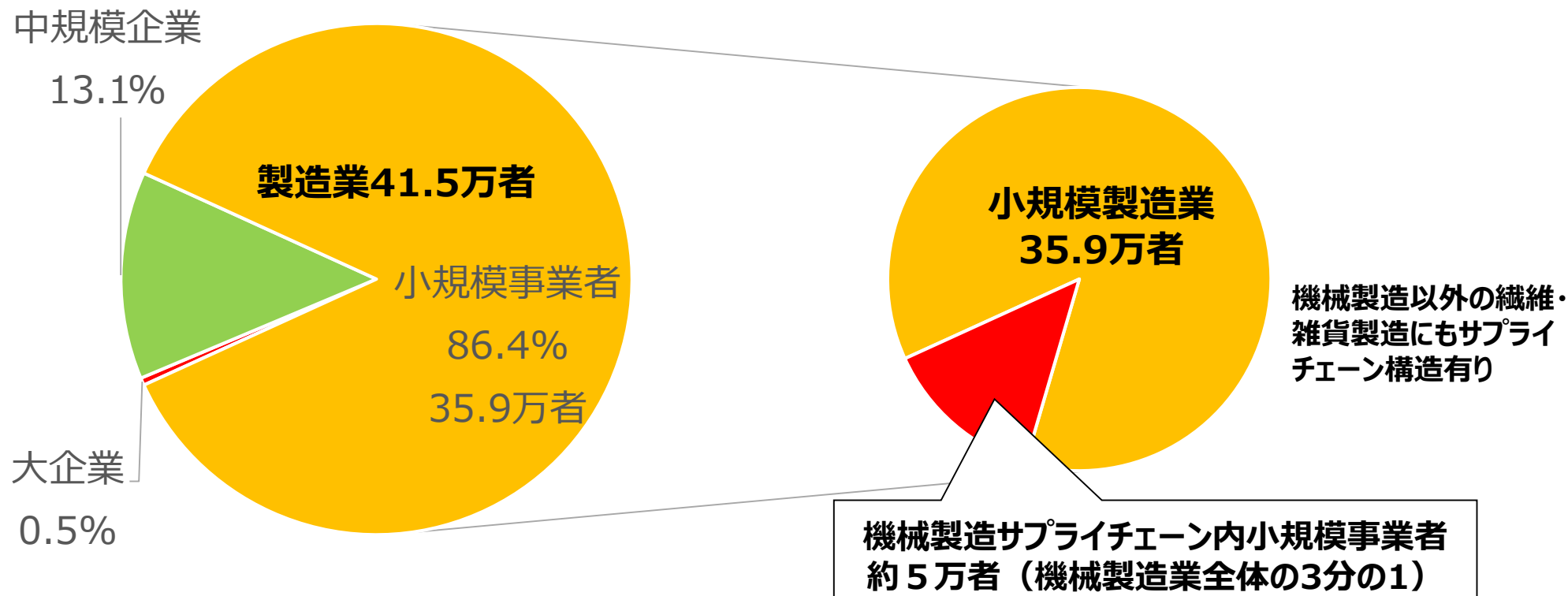
製造業のサプライチェーンについて

平成30年6月29日

中小企業庁

製造業・サプライチェーン全体から見た小規模事業者のポジション

- 我が国における製造業は、GDPの約2割を占めるとともに、他産業への波及効果が大いことが特徴。
- 一方、我が国製造業の多くは、小規模事業者であり、サプライチェーンの頑強化の鍵は小規模事業者が握っている。

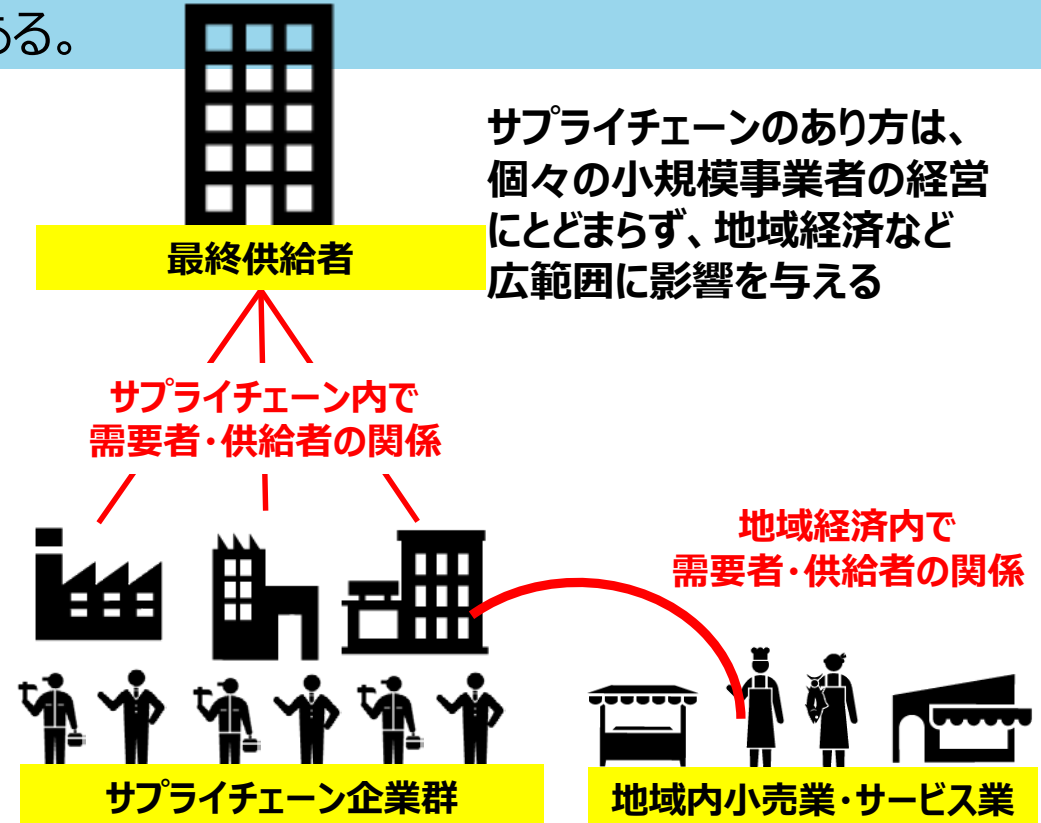
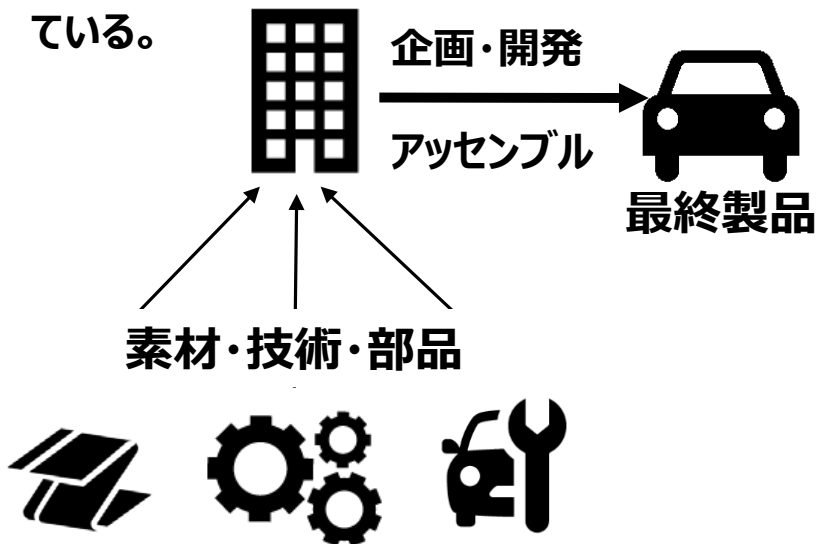


自社自身が機械製造関連業種に属し、かつ機械製造関連業種と取引がある事業者を機械製造サプライチェーン内小規模事業者とした。事業者数は、帝国データバンクCOSMOSデータ内の機械製造業小規模事業者数と、そのうち企業間取引を行う小規模事業者数を抽出。同比率と経済センサスデータをもとに推計。

サプライチェーンと小規模事業者、地域経済の関係

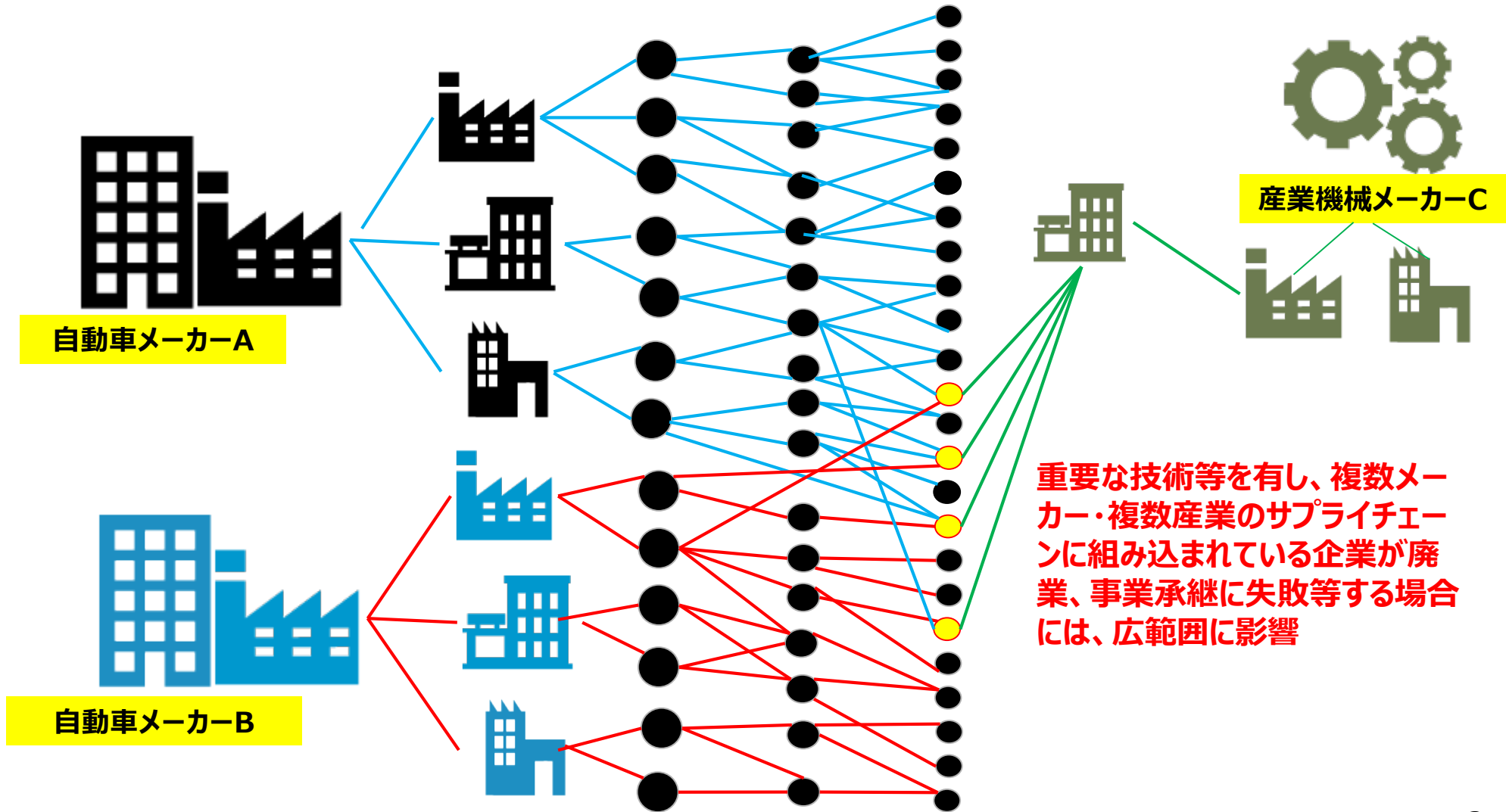
- 自動車製造等に代表されるサプライチェーンと小規模事業者の経営、地域経済は密接な関係にある。
- 地域未来牽引企業2148社のうち、製造業は1369社。地域未来牽引企業のうち、従業員20人以下の企業は194社（9%）であり、そのうち製造業は46.9%。
- 大企業からの発注に依存する小規模事業者の存在は、裏を返すと、大企業自身も小規模事業者に依存していることの証左でもある。

自動車等の工業製品の生産・流通は、最終製品メーカーだけで完結せず、分業体制（サプライチェーン）によって供給され、それぞれの技術や生産能力に依存している。



複雑なネットワーク構造の中にあるコネクタースタブ企業の存在

- 製造業のサプライチェーンは、単一メーカーを頂点とした独立のピラミッドではなく、複数の頂点を持つ複雑なネットワーク構造。



視認性が低い小規模事業者の存在

- 下請構造のより末端に位置する小規模事業者は、サプライチェーンにおいて重要な事業者であっても、大企業その他のステークホルダーにその重要性が認知されていないケースが多いのではないかと。
- そうした事業者の生産能力・技能・ノウハウが維持されないと、間接的に依存してきていた大企業の経営・技術基盤が、予期せざる形で影響を受けることになるのではないかと。

大企業

直接的な取引先 (Tier1) までは見えていても、その先の取引先までは実態把握できていないのではないかと。

中小中堅企業

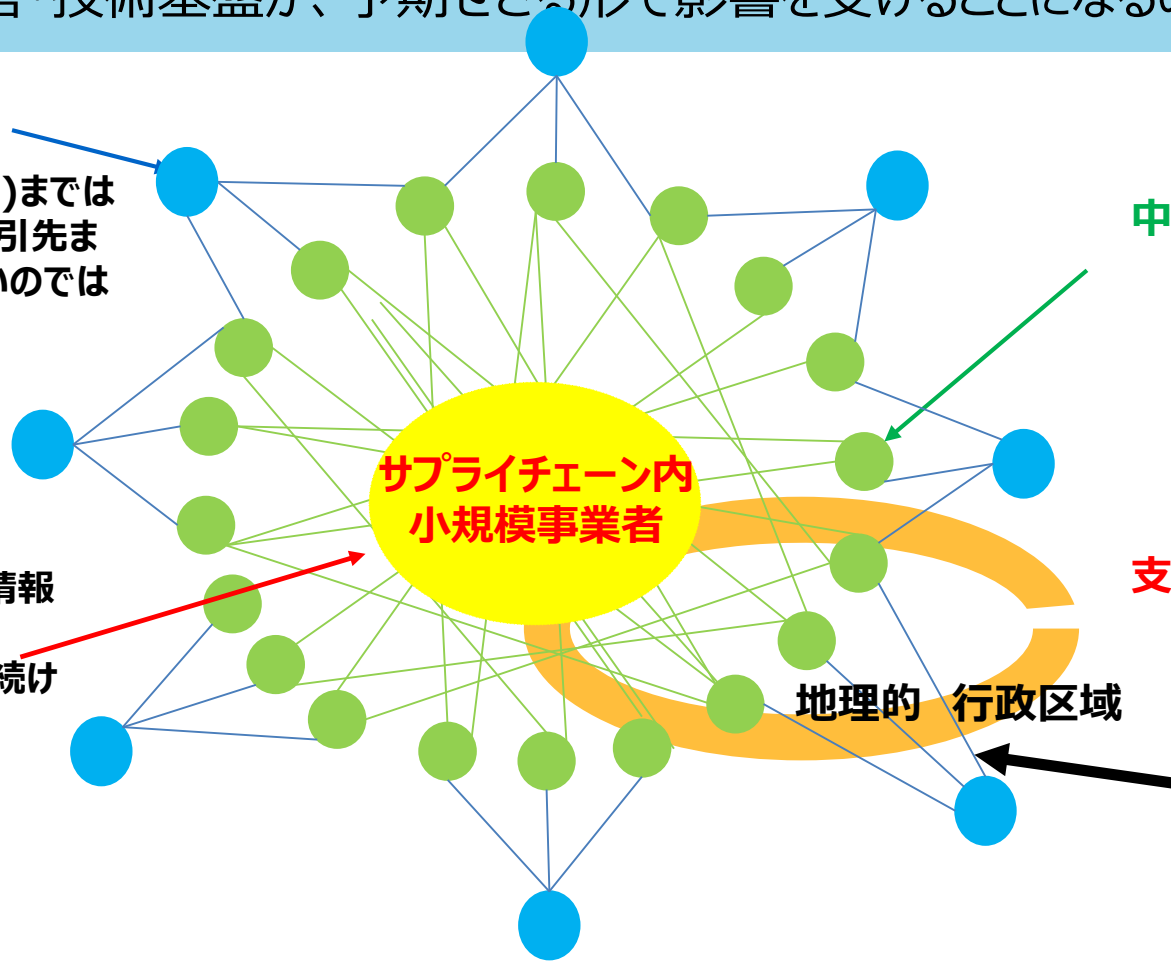
発注元の大企業と比べて、各層の取引先の実態を認識できても、支援の担い手として役割を有するかと？

支援機関や地方自治体

各種の中小企業支援機関 (商工会・商工会議所を含む) や地方自治体の視認限界を超えているのではないかと？ 十分な支援を行えているだろうか？

国

国は、一時点を切り取った情報しかとれない変化し続けながら形を保ち続けるネットワーク構造は、定時定点観測の統計では把握しにくい



本日の論点

- サプライチェーン傘下にいる小規模ながらも重要な技術・ノウハウを持った製造企業が、事業承継や人手不足等の構造的な課題を抱え、廃業等のリスクを有しているのではないか？ これらの企業について、OEM/大企業は必ずしも十分に見えていないのではないか？
- 地域産業振興を担う自治体は、そうした企業の価値に気づいているか。その価値を認識したうえで適切な政策がとられているか。
- 中小企業支援機関（商工会、商工会議所を含む）も、サプライチェーンを支える製造企業が抱える経営課題に、対応できているか。
- 小規模企業の脆弱化が懸念される中で、その価値を認識し、必要なリソースを投じるインセンティブ、ないしはメカニズムが存在していないのではないか？